

今後の就学指導の在り方に関する課題提起

(茨城県東海村での実践を通して)

全国町村教育長会(茨城県)

I 適切な就学指導につなげるための早期からの教育相談や支援をどのように充実させるか

【1】問題として

- ・適正な就学を検討する就学指導委員会の判定結果は、親の意向もあり、あまり機能していないのが現状である。
- ・親は、いろいろな情報の中で戸惑いながら、時には出会った団体の特定な考えの情報等を頼りに就学先を決定しているところもある。我が子の支援プログラムが見えない中では仕方がないことである。
- ・ある日、突然就学先が相談される現状では親の戸惑いと反発を招くだけである。
 - ・早期からの継続支援が適正な就学指導につながる。【資料1:現状課題(関係者の声から)】

【2】対策として

① 継続支援のシステム

保護者に寄り添いながら、誕生から卒業まで継続的に見守り、支援できるシステムの構築が必要である。

- ◇ 本村では乳幼児から小・中学校卒業まで、資料2・3のようなシステムで、保護者／幼稚園(保育園)・小中学校関係者への支援に取り組んでいる。【資料2:東海村の療育へのフローチャート 資料3:東海村発達支援センター巡回相談について】

○ 支援の中核機能は「発達支援センター」である。

- ・教育委員会が中核となり、関係機関と連携を図っている。
- ・臨床心理士など専門家が非常勤(週1回)のため、相談・検査が不十分である。
- ・グレーゾーンの幼児を発見するためには、5歳児検診(現状1歳6ヶ月、3歳児検診のみ実施)が必要と考えている。

② 支援プログラムの作成と提示

支援システムの機関で、支援プログラムを作成して、保護者も関係者も見通しを持った支援ができる体制が必要である。

- ・早期からの支援プログラムをどこの機関で、どのように作成するかを検討が必要である。(就学期になって学校で作成しては遅い)
- ・就学期を迎えたら、支援システムで、支援プログラムに基づいた移行に役立つ個別の支援計画を作成する。

◇ 本村では、発達支援センターの専門家・巡回相談員及び保護者、保健センター(保健師)を中心として、支援プログラムを作成しようとしている。

◇ また、移行に役立つ個別の支援計画の作成については、巡回指導を通して作成してきた個別の巡回相談の記録に基づき、発達支援センターの相談員及び幼稚園(保育園)関係者、保護者を交えて作成していく考えである。この個別の支援計画の作成は、就学先の判定だけでなく、就学後どのように見守っていくか、支援内容の見通しが見られるものである。(判定材料としてではなく、支援内容の検討が適正な就学指導に活かされる)

◇ 本村では、資料4「巡回相談票」を活用し、障害の疑いのある幼児の生活状況を観察している。また、資料5「個別相談記録票」を通して保護者の思いや願いを受け止めながら、療育支援をしている。その過程で資料6-1, 2, 3「個別の支援計画」を作成し、適切な

就学指導に活かすとともに、就学後の支援計画の各関係機関での共有化を図っていかうとしている。

【3】東海村の実践を踏まえて、全国的に支援を充実させる課題として

- ① 広域的な支援システムの構築（市町村横断的な組織）
いくつか町村の幼児、児童生徒に対応できる地域の支援センターのようなものを設置していく必要がある。その際、各地域の学校からの距離や経費負担の問題などがある。
- ② 特別支援学校を中核とした支援体制の整備
日常的に保護者や地域の学校の教師への支援が行える体制整備が必要である。現状は日常的ではない。

Ⅱ 一人一人の教育的ニーズに応じた就学先決定手続きをどのようにすべきか

【1】問題として

- ・就学先決定手続きがうまく機能しないのは、就学先のための情報しか保護者に提供されないことにある。
- ・大切なのは、①移行支援プログラムが先に提示されていて、その中で②子どもの課題（特別な教育的ニーズや保護者の願い）を明確にし、③その課題（特別な教育的ニーズ）を達成するにはどこの教育機関が適切か、①②③の手順での検討が重要である。（このような課題がある、それをクリアする必要がある。そのためにはどこがその子にとってのホームベースになるのか、ここを第一とした就学指導である。）

【2】対策として

- ① 上記のような「①②③」の手順で就学先の決定をしていくべきである。
- ② 就学指導委員会から「就学支援委員会」へ
現在の就学指導委員会は、就学先決定機関のみになっている傾向があるので、継続支援の役割を持たせる意味で「就学支援委員会（仮称）」に名称を改めてもよいのではないかと。

Ⅲ その他の就学指導の在り方について

- ① 個別支援計画の手帳化
就学先及び転校先ごとに、子どもの生育歴を書くことになる。母子手帳または療育手帳があれば保護者の負担軽減につながるし、これまでの指導経過が見える。
- ② 特別支援学校の在籍児童生徒の居住地交流について

- ・障害児も地域で育てることが基本であり、その流れは世界的な傾向である。
- ・地域のことを知り、地域の人に知ってもらうことは大切であり、同じ仲間との知り合いにつながる。そのための大切な事業として、居住地交流は意味がある。

しかし、現状は、学期1回程度で、お客さん扱いのところがある。また、現状の教育課程の枠内では、指導教諭が引率する関係から、回数に制限がある。事業所体験のような形（当日の指導は各地域の学校が中心に行い、特別支援学校の指導教諭は、巡回しながらいくつかの学校を周り指導する形）になれば、交流の回数も増え、双方の学校での教育効果が高まると考える。当然、地域の小・中学校で特別支援学級に在籍している児童生徒の「特別支援学校での体験学習」も一定期間設けられるような整備が必要である。

Ⅳ 上記のほか、特別支援教育全般に関する意見等について

- ① 就学先の支援体制の整備
 - ・特別支援教育支援員制度の充実・・・幼稚園から中学校まで
 - ・モデル事業の成果を全障害児支援モデルに応用する体制

※ 「地域が一生涯を見ていく」という視点から考えると、地域で見守っている「NPO」を行政が育てていく形が必要ではないか。当然、NPOの方々が支援員になることもある。

- ② 特別支援教育コーディネーターの任命制や研修制度などについて
 - ・特別支援教育コーディネーターは各幼稚園、小・中学校の中核職員が担当している。責任ある仕事をさせる意味でも省令主任とすべきである。また、様々な障害の相談や事例に対応できる力を伸ばすために、研修制度を充実させる必要がある。
- ② 特別支援学級設置の弾力化
 - ・人数等、障害の内容等での弾力化を図ってほしい。通級児童生徒だけでも開設できるなど弾力化を願いたい。
- ③ 乳幼児からの支援プログラム情報（個別の支援計画等）の各関係機関での共有化
 - ・発達支援センター等で管理し、より適切な支援ができるような体制作りができればよい。
- ④ 「障害の程度が顕著に見えてくる5歳児健診」の必要性
 - ・早期発見・早期対応、適切な就学指導をする上でも、5歳児健診の制度化が必要であると考ええる。
- ⑤ 特別支援学校のセンター的機能の充実
 - ・日常的に地域の学校で教師や保護者への支援が行えるような体制整備が必要である。
 - ・先ずは、「地域を育てる」努力が必要である。
 - ・障害のある児童生徒に日常的に直接関わりながらの研修機会を設けていくべきである。
- ⑦ 学校教育の目的は自立した社会人の育成である。現状の小・中学校では、障害のある児童生徒に対して適切な支援を継続的に行う機能が特別支援学校に比べると十分ではない。障害の実態に応じては、現段階の学校の実情を考えると、適切な支援が継続的に適切に行える特別支援学校への就学が望ましい場合もある。

今後の相談体制の在り方と課題（関係者の声から） 資料1

平成 20 年 11 月 10 日

1 現場の関係者のつぶやき

(1) 保護者

- ① 障害があっても地域で育てたい
- ② 大きな集団の中で社会性を育てたい
- ③ 障害児だって地域の小中学校で学習を受ける権利がある
- ④ 小中学校できちんと対応してくれない
- ⑤ 相談に行くたびに、子どもの実態等同じ事を何度も聞かれて、それだけで疲れてしまう

(2) 保健師さん

- ① 私たちの責任は、どこまでなのか（小学校に入学段階で関係が切れてしまう）
- ② 私たちの指導した保育情報はどうしたらいいのだろう

(3) 幼稚園（保育園）の先生

- ① 幼稚園に特別な教育的ニーズのある幼児が入ってきている
- ② どのように対応してよいかわからない
- ③ 幼稚園（保育園）で指導したことが、小学校にどう引き継がれていくのだろう

(4) 小中学校の先生（管理職も含む）

- ① 養護学校が適当と思われる児童生徒が小中学校に入ってきて指導が難しくなっている
- ② 町村の就学指導委員会は、きちんと指導してほしい
・ 入学後の就学指導も行政が係わってほしい
- ③ 通常の学級に多動や攻撃行動など発達障害等を疑われる児童生徒がいて、指導ができない
- ④ 学級に生活指導員（支援員）を配置してほしい

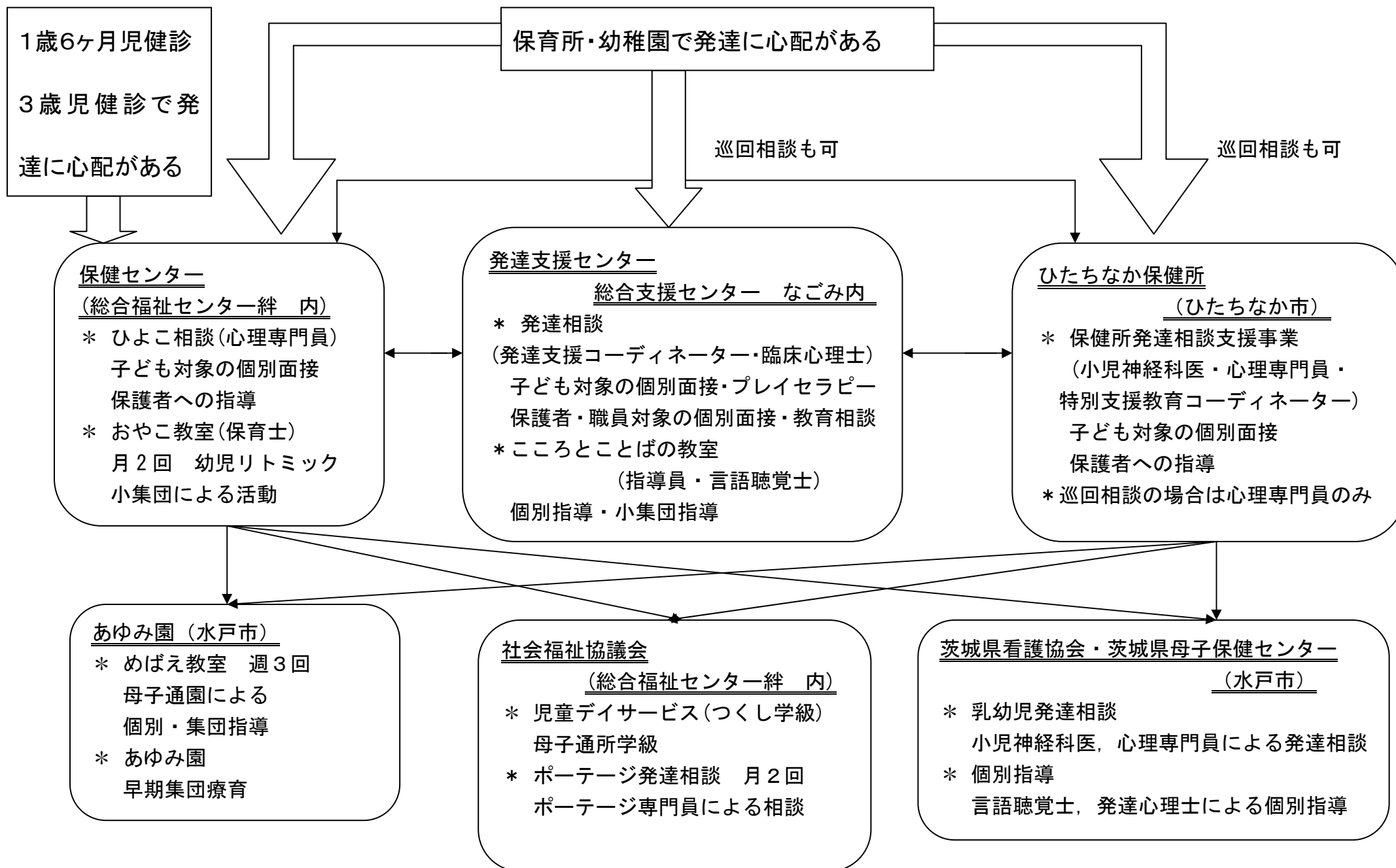
(5) 町村の就学指導委員（専門家も含む）

- ① 判定だけでは意味がない。必要なのは、判定前から判定後までも支援できる体制である
- ② 保護者の意見を聴く機会がない。協議に参加させてもいいのではないか
- ③ 今の教育相談機関は、専門機関の紹介センターの機能しかないのではないか
（保護者に寄り添って、一緒に考える仕組みが必要である）
- ④ LD等の通級教室の開設が急務である
- ⑤ 就学前から保護者と対応し、情報をきちんと提供していくことで、保護者自身も子育てのイメージが作られて、就学等で正しい判断ができるようになるのではないか

(6) 小中学校の特別支援教育担当者の悩み

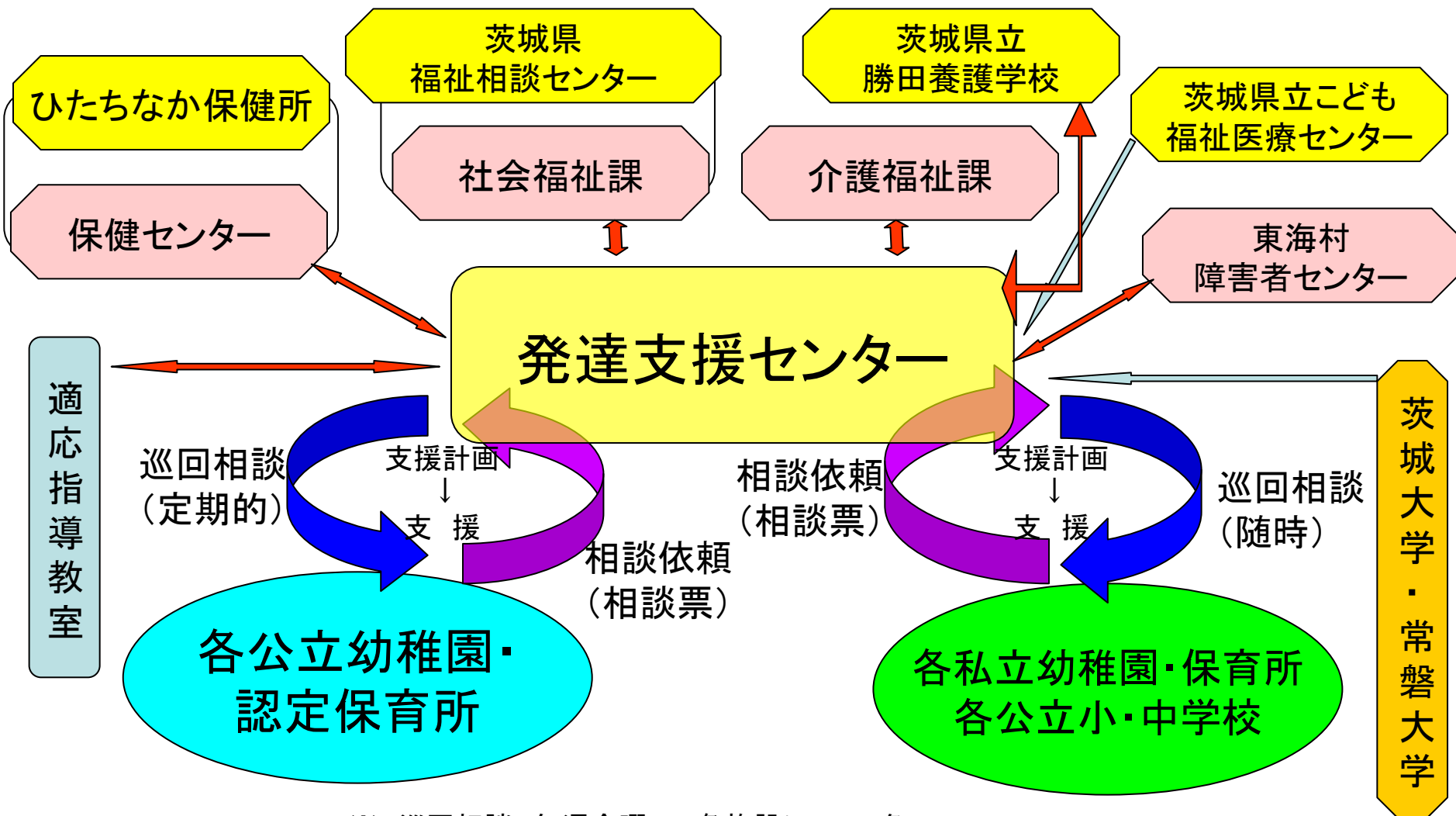
- ① 特別な教育的ニーズのある児童生徒の具体的な支援方法がわからない
・ 知的障害、情緒障害、多動、LD等多様な子どもを抱えている
- ② 特別支援学級の運営方法
・ 見通しを持った指導のノウハウがない
- ・ 障害の重度な子どもに手がかかり、他の子どもへの支援が手薄になる
- ③ 保護者との連携・理解
・ 保護者が子どもの現状を受け入れない
- ・ 保護者支援の在り方
- ④ 校内支援体制の運営
・ 担任とコーディネーターの兼務の難しさ。コーディネーターの役割
- ⑤ 教職員の連携
・ 通常学級担任の障害児への理解、教員間の指導観のずれ
- ⑥ 進路
・ 進路情報の収集、適切な進路指導の在り方

《東海村の療育へのフローチャート》



東海村発達支援センター巡回相談について

 専門的助言・支援
 連携・協力
 巡回相談への職員の派遣



※ 巡回相談 メンバー 毎週金曜日 各施設に2～3名
 指導員＋就学指導専門委員など上記の各関係協力機関職員

基礎資料一覧表A(様式1)

	ふりがな 幼児名 生年月日・性別	考えられる 障 害	諸検査	現 在 の 状 況			総 合 所 見(保護者の要望・様子も含めて)			相談したい内容							記録更 新 年月日
・ ・ ・ ・ ・ 保育園	ふりがな	1盲 2ろう	S-M 社会生活	SQ() 歳 月	項目	評価	特記事項	○現在発達相談を受けている。(①ひたちなか保健所②母子センター) ○補助保育士が一人付き添っている。 ○集中できる時間は10分程度(様子を見ながら好きな遊びへ) ○昼食の時間やお迎えの時間がずれると不安になり叫び声をあげることがある。 ○なかなか集団の遊びに入ることができない。 ○一番になれないと機嫌が悪い。 ○保護者の方は本人の障害について理解をしていて、就学に関しても心配している。特別支援学級への就学も考えにはある。 ○祖父母の理解を得るのが難しい。特別支援学級への就学によって偏見をもたれるのではないかと心配している。								平成〇〇年〇月〇日	
	〇〇 〇〇	3知的障害	能力検査 平成18年〇月〇日	言語	B	2語文程度の言葉しか発しない。											
		着脱					C										着脱はできるが衣服は脱ぎっぱなし、片付けは促されてできる。
		4肢体不自由	wisc-Ⅲ 全検査 IQ 〇〇	排泄	D	問題なくできる。											
		5病弱		食事	C	遊びたべやムう食いがある。											
6言語障害	移動	D		小走りで移動することが多い。													
7自閉症等	指示	D	情緒が安定している時は聞けるが、状況によっては聞けないことがある。														
8情緒障害	集団参加	B	集団遊びにも参加する場面があるが、ほとんど一人でいることが多い。														
9その他																	
郵便番号・住所	〒319-1101 茨城県那珂市東海村〇〇〇町〇〇〇		保護者名	〇〇 〇〇			家族構成(人数)	父	母	兄()	姉()	弟()	妹()	祖父	祖母		
電話	029-282-〇〇〇〇		勤務先(連絡先)	〇〇〇-〇〇〇-〇〇〇〇			(年齢)	■才	■才	■才	■才	■才	■才	■才	■才		
(生育歴)	胎児期の異常 (特に無し)		出産時の異常	(特に無し)	早産・熟産	(11ヶ月)	出産時の体重(2245g)	乳児の発育(やや不全)		つかまり立ち(1年3ヶ月)				歩き始め(2年8ヶ月)		始語(3年0ヶ月)	

この相談票を関係機関で共有することを承諾する 保護者氏名

資料 5

保育園	ふりがな		考えられる障 害	諸検査	現 在 の 状 況			総 合 所 見(保護者の要望・様子も含めて)	相談したい内容	記録更新年月日							
	幼児名				項目	評価	特記事項										
	生年月日・性別																
・ ・ ・ ・ ・ 保 育 園	ふりがな		1言	S-M 社会生活	SQ () 歳 月 平成18年〇月〇日	項目	評価	特記事項	〇現在発達相談を受けている。(①の ① だんなが保健所 ②母子センター) 〇補助保育士が一人付き添っている。 〇集中できる時間は10分程度(様子を見ながら好きな遊びへ) 〇昼食の時間やお迎えの時間がすれると不安になり叫び声をあげることがある。 〇なかなか集団の遊びに入ることができない。 〇一番になれないと機嫌が悪い。 〇保護者の方は本人の障害について理解をしていて、就学に関して心配している。特別支援学級への就学も考えにはある。 〇祖父母の理解を得るのが難しい。特別支援学級への就学によって偏見をものたれているのではないかと心配している。	・今回の巡回相談では、スケジュール管理の方法について指導していただきたい。	平成〇〇年〇月〇日						
	〇〇 〇〇		2ろう									能力検査	言語	B	2語文程度の言葉しか発しない。		
	〇〇 〇〇		3知的障害	wisc-III 全検査 IQ 〇〇	着脱	C	着脱はできるが衣服は脱ぎっぱなし、片付けは促されてできる。										
			4肢体不自由		排泄	D	問題なくできる。										
			5病弱		食事	C	遊びたべやムラ食いがある。										
平成〇年〇月〇日生 男		6言語障害	移動	D	小走りで移動することが多い。	指示	D	情緒が安定している時は聞けるが、状況によっては聞けないことがある。									
7自閉症等	集団参加	B		集団遊びにも参加する場面があるが、ほとんど一人でいることが多い。													
8情緒障害																	
9その他																	
郵便番号・住所	〒319-1101 茨城県那珂市東海村〇〇〇町〇〇〇			保護者名		〇〇 〇〇			家族構成(人数)	父	母	兄()	姉()	弟()	妹()	祖父	祖母
電話	029-282-0000			勤務先(連絡先)		〇〇〇-〇〇〇-〇〇〇〇			(年齢)	■才	■才	■才	■才	■才	■才	■才	■才
(生育歴)	胎児期の異常 (特に無し)		出生時の異常 (特に無し)	早産・熟産 (11ヶ月)		出生時の体重(2245)		乳児の育児(やや不全)		つかまり立ち(1年3ヶ月)		歩き始め(2年8ヶ月)		始語(3年0ヶ月)			

医療	福祉(就労)		相談内容	保護者の願い・要望	教育	保健
県立医療福祉センター (担当医 ○○ ○○)	東海村障害者支援センター (指導員 ○○○○)		←(主な支援機関)→		発達支援センター (指導員 ○○ ○○)	東海村保健センター(保健師 ○○○○)
県立医療福祉センター (担当医 ○○○○) の診断結果を保護者より確認		9 月 12 日	小学校就学へ向けて、学級担任、主任、発達支援センター相談員で相談	・小学校の特別支援学級の見学を希望 ・今後の園での生活で特に指先の訓練を願っている。	これまでの通所指導により、個別指導時の様子について伝達する。	ひよこ相談(3歳児健診時)において、障害者センターの療育支援を勧めたことを確認する。
		11 月 10 日	小学校就学へ向けて、就学予定の小学校の特別支援コーディネーター及び幼稚園主任、幼稚園学級担任と発達支援センター担当相談員で相談する。	特別支援学級での就学がよいか、特別支援学校での就学がよいか考慮中である。	これまでの通所指導により、特別支援学級への就学が望ましいことを助言する。	

資料 5

	ふりがな 幼児名 生年月日・性別	考えられる障害	諸検査	現在の状況			総合所見(保護者の要望・様子も含めて)	相談したい内容	記録更新年月日									
保育園	ふりがな	1盲 2ろう	S-M 社会生活能力検査	SQ () 歳月 平成18年〇月〇日	項目	評価	特記事項	○現在発達相談を受けている。(①ひだちな保健所 ②母子センター) ○補助保育士が一人付き添っている。 ○集中できる時間は10分程度(様子を見ながら好きな遊びへ) ○昼食の時間やお迎えの時間がずれると不安になり叫び声をあげることがある。 ○なかなか集団の遊びに入ることができない。 ○一番に成れないと機嫌が悪い。 ○保護者の方は本人の障害について理解を促して、就学に関して心配している。特別支援学校への就学も考えにはある。 ○祖父母の理解を得るのが難しい。特別支援学校への就学によって偏見をもたれているのではないかと心配している。	・今回の巡回相談では、スケジュール管理の方法について指導していただきたい。	平成〇〇年〇月〇日								
	〇〇 〇〇	3知的障害 4肢体不自由 5病弱 6言語障害 7自閉症等 8情緒障害 9その他	wisc-Ⅲ 全検査 IQ 〇〇	言語	B	2語文程度の言葉しか発しない。												
	平成〇年〇月〇日生 男		着脱	C	着脱はできるが衣服は脱ぎっぱなし、片付けは促されてできる。													
		排泄	D	問題なくできる。														
		食事	C	遊びたべやムラ食いがある。														
		移動	D	小走りで移動することが多い。														
		指示	D	情緒が安定している時は聞けるが、状況によっては聞けないことがある。 集団遊びにも参加する場面があるが、ほとんど一人でいることが多い。														
		集団参加	B															
郵便番号・住所	〒318-1101 茨城県那珂市東荒井〇〇〇町〇〇〇			保護者名	〇〇 〇〇			家族構成(人数)	父	母	兄()	姉()	弟()	妹()	祖父	祖母		
電話	029-282-〇〇〇〇			勤務先(連絡先)	〇〇〇-〇〇〇-〇〇〇〇			(年齢)	■才	■才	■才	■才	■才	■才	■才	■才		
(生育歴)	胎児期の異常 (特に無し) 出産時の異常			(特に無し)	早産・熟産	(11ヶ月)	出産時の体重(2245)	乳児の育児(やや不全)			つかまり立ち(1年3ヶ月)				歩き始め(2年8ヶ月)		始語(3年0ヶ月)	
↓ (以下記録継続)																		

	ふりがな	考えられる障 害	諸検査		現 在 の 状 況			総 合 所 見(保護者の要望・様子も含めて)	相談したい内容								記載更新年月日			
	幼児名 生年月日・性別																			
保育園	ふりがな	1盲 2ろう	S-M 社会生活	sq () 歳 月	項目	評価	特記事項	○矯正発達相談を受けている。 ①ひたちなか保健所 ②母子センター) ○補助保育士が一人付き添っている。 ○集中できる時間は10分程度(様子を見ながら好きな遊びへ) ○昼食の時間やお迎えの時間がすれど不安になり叫び声をあげることがある。 ○なかなか集団の遊びに入ることができない。 ○一番になれないと機嫌が悪い。 ○保護者の方は本人の障害について理解をしていて、就学に関しても心配している。特別支援学級への就学を考えている。	・今回の巡回相談では、スケジュール管理の方法について指導していただきたい。								平成○○年○月○日			
	〇〇 〇〇	3知的障害	能力検査 平成18年○月○日	wisc-Ⅲ 全検査 IQ 〇〇														言語	B	2語文程度の言葉しか発しない。
		着脱																C	着脱はできるが衣服は脱ぎっぱなし、片付けは促されてできる。	
		排泄																D	問題なくできる。	
		食事																C	遊びたべやムラ食がある。	
	平成○年○月○日生 男	5病弱	移動	D														小走りで移動することが多い。		
6言語障害 ⑦自閉症等		指示		D	情緒が安定している時は聞けるが、状況によっては聞けないことがある。															
		9その他	集団参加	B	集団遊びにも参加する場面があるが、ほとんど一人でいることが多い。															
郵便番号・住所 〒319-1101 茨城県那珂市東海村〇〇〇町〇〇〇			保護者名		〇〇 〇〇			家族構成(人数)	父	母	兄()	姉()	弟()	妹()	祖父	祖母				
電話 029-282-0000			勤務先(連絡先)		000-000-0000			(年齢)	■才	■才	■才	■才	■才	■才	■才	■才				
(生育歴)	胎児期の異常 (特に無し)	出産時の異常	(特に無し)	早産・熟産 (11ヶ月)	出生時の体重(224g)			乳児の育児(やや不全)		つかまり立ち(1年 3ヶ月)			歩き始め(2年 8ヶ月)			始話(3年 0ヶ月)				

医療	福祉(就労)		各期の目標	保護者の願い	教育	保健
県立医療福祉センター (担当医 ○○ ○○)	東海村障害者支援センター (指導員 ○○○○)		←(主な支援機関)→		発達支援センター (指導員 ○○ ○○)	東海村保健センター(保健師 ○○○○)
(特記事項なし)	(特記事項なし)	乳 児 期	(これまでの経過) ・保健センターの1歳6ヶ月児検診で保健師より、「ひよこ相談」を進められ相談を行い始める。	○検診及びひよこ相談において発達に遅れがあることに気が付いた。特に言葉の遅れについて不安をもっていた。	(特記事項なし)	(特記事項なし)
(これまでの経過) 3歳児検診後、脳波検査を行う。診断結果は異常なし。 平成18年7月 自閉症と診断を受ける。	(これまでの経過) 社会福祉協議会の児童デイサービス(ポーターズの集団指導)を行う。言語性と動作性におけるアセスメント項目で低い評価であったため、その二つの領域を中心に指導を行う。[ポーターズの評価項目 運動(粗大・微細) 言語(書・読) 社会性(集団参加・指示傾聴) 身辺(食事・排泄) 認知(言語・記号・絵)である。]	幼 児 期	(これまでの経過) ・「ひよこ相談」で児童デイサービス(つくし学級)を進められ、平成17年8月通級を始める。 ・平成18年4月 村松幼稚園に入園する。児童デイは継続。幼稚園では平成18年度9月より介助員による支援を開始。	○家庭内で食事、排泄について自立できる訓練を行い、児童デイでもそうした領域の支援を依頼していた。 ○就学にあたっては、通常学級で就学できることを願っていた。低学年のうちだけでも多くの児童と関わらせたい思いから。	(特記事項なし)	(これまでの経過) 平成17年5月の3歳児検診時に保健師より、臨床心理士による相談を進める。相談の結果、医療機関での脳波の検査を勧める。

(別紙様式⑤－2) 個別の支援計画案(例)

基礎資料B

平成21年〇月〇〇日

学校名(東海村立〇〇小学校)

作成者名(〇〇 〇〇)

資料6－2

ふりがな 園児児童生徒氏名 生年月日・性別	過去の判定 現在の在籍 ・通級状況	考えられる 障 害	諸検査		学業成績、興味・関心						社会生活能力			体位・運動能力				家庭の様子				特 記 事 項 (行動・性格等)	記録更新 年月日			
	国語	算数 数学			社会	理科	英語	図工／音 楽	身辺生活処 理	集団生活参 加	作業	体位	運動	健康 状態	出欠 状況	教育環境	家族構成	教育的関 心	本人の地位							
ふりがな	H12	1盲 2ろう	S-M 社会生活 能力検査	SQ() 歳 月 平成21年〇 月〇日	1	1	1	1		2	1	1	1	3	1	3	3	2	両親 兄(小5)	3	2	人との関わり は苦手だが、 親しみを感 じている人 に対しては 優しく気遣 う言葉が できる。介 助員に甘 えて接 触を求め ることが 多い。	二十 一 年 度			
〇〇 〇〇	知的障害学級 在籍適	3知的障害 4肢 体 不 自 由 5病弱			名前を聞かれると自分の名前は自分で言うことができる。会話も4語文で自分の意志を伝えることができるようになってきている。言葉での指示より、平仮名の文字を紙に書いた指示の方が分かりやすいようである。乗り物の絵カードに対する興味・関心が高く、絵カードにあるほとんどの車の名前を言うことができる。						衣服の着脱は自分でできる。排泄は尿は自立しているが、排便には時間での声かけが必要である。集団で話を聞いている時に声をあげる時がある。で「話しをしない」と指示すると静かになる。工作等の作業は苦手である。はさみで紙を切る際も介助が必要である。			体格は同年齢の幼児と同等の発達である。走力が弱い。50m走では最後まで走り続けることができず、ゴール手前5mからは歩いてしまった。跳躍力も弱く、垂直跳びは10cm程度しか飛ぶことができない。健康状態は良好である。欠席も少ない。				母親は3歳児検診より本人にあった支援を各関係機関との相談を行いながらきめ細かく本人の支援にあたってきた。父親理解があり母親に相談機関等のアドバイスをもらった。祖母が特別支援に対してやや抵抗感を持っている。								
平成〇年〇月〇日生 男	地区別支援学級 在籍(みなみ学級)	6言語障害 ⑦自閉症等 8情緒障害 9その他	WISC-III 言語性 (VIQ)/67 動作性 (PIQ)/68	全検査 IQ 68	(相談したい内容) ・取り出し指導時の物語分の登場人物の気持ちの読み取りの仕方を指導して欲しい。 ・コミック会話など自分の気持ちを表現できる力を伸ばす支援の在り方を教示していただきたい。																					
郵便番号・住所	〒319-1101 茨城県那珂郡東海村〇〇〇町〇〇〇	保護者名	〇〇 〇〇						家族構成(人数)			父	母	兄()	姉()	弟()	妹()	祖父	祖母							
電話	029-282-0000	勤務先(連絡先)	000-000-0000						(年齢)			■才	■才	■才	■才	■才	■才	■才	■才							
(生育歴)	胎児期の異常 (特に無し)	出産時の異常 (特に無し)	早産・熟産 (11ヶ月)	出産時の体重 (2245 g)	乳児の発育(やや不全)			つかまり立ち (1年 3ヶ月)				歩き始め(2年 8ヶ月)				始語(3年 0ヶ月)										

※ 上記の内容は小学校へ入学時に作成し直す。

各期の支援の目標(幼稚園からの記録にリンク)

医療	福祉(就労)		各期の目標	保護者の願い	教育	保健
県立医療福祉センター (担当医 〇〇 〇〇)	東海村障害者支援センター (指導員 〇〇〇〇)		←(主な支援機関)→		発達支援センター (指導員 〇〇 〇〇)	東海村保健センター(保健師 〇〇〇〇)
・不安な症状がでる時は、受診し薬により不安を和らげる。	・週1回(月) 言語聴覚士による言語指導を行う。 ・週1回(水) 指導員による生活スキルトレーニング、発音訓練を行う。	低学年	1・小学校生活に慣れ、楽しく生活することができる。 ・簡単なルールを理解してゲームに参加する。	○通常学級での指導に感謝している。特別支援学級での取り出し指導は国語、算数という願いがある。	・特別支援学級で個別の指導計画に基づく指導を進める。(参照 個別の支援計画) ・茨城県研修センター特別支援教育課の相談(言語指導)を毎月2回ずつ行い、言語によるコミュニケーション能力の向上を図る。	(特記事項なし)
・不安な症状がでる時は、受診し薬により不安を和らげる。	・障害者支援センターのレスパイト事業で集団指導を受ける。	中学年	2・少しずつ自分の意志を言葉で伝えることができる。 ・友達と一緒に過ごすことができる。	○特別支援学級への移籍を考えている。しかし交流学級で体育や音楽は取り組ませたという願いがある。	・特別支援学級で個別の指導計画に基づく指導を進める。(参照 個別の支援計画) ・茨城県研修センター特別支援教育課の相談(言語指導)を毎月3回ずつ行い、自分の意志を会話で表現できるようにする。	(特記事項なし)
・個別の支援プログラムにより、気持ちが不安定になることが減り、投薬を減らす方向である。	・障害者支援センターのレスパイト事業で集団指導を受ける。	高学年	3・相手を意識して、その場に応じた話ができるようになる。 ・自分の予定を把握し、自分で判断して行動ができる。	○特別支援学級では自立活動を増やしたいという願いがある。家庭内でも支援していきたい考えである。	・特別支援学級で個別の指導計画に基づく指導を進める。(参照 個別の支援計画) ・茨城県研修センター特別支援教育課の相談(言語指導)を毎月3回ずつ行い、日常的会話ができるように支援する。	0

ふりがな 園児児童生徒氏名 生年月日・性別	過去の判定 現在の在籍・通級状況	考えられる障 害	諸検査		学業成績、興味・関心						社会生活能力			体位・運動能力				家庭の様子				特 記 事 項 (行動・性格等)	記録更新 年月日
	国語				算数 数学	社会	理科	英語	図工／音 楽	身辺生活処 理	集団生活参 加	作業	体位	運動	健康 状態	出欠 状況	教育環境	家族構成	教育的関 心	本人の地位			
ふりがな	H12	1盲 2ろう	S-M 社会生活 能力検査	SQ() 歳 月 平成21年〇 月〇日	1	1	1	1	2	1	1	1	3	1	3	3	2	両親、 兄(小5)	3	2	人との関わり は苦手だが、 親しみを感じて いる人に対して 優しく気遣う言 葉かけをする。 介助員に甘え て接触を求め ることが多くあ る。	二十一年 度	
〇〇 〇〇	知的障害学級 在籍適	3知的障害 4肢 体 不 自 由 5病弱	WISC-Ⅲ 言語性 (VIQ)67 動作性 (PIQ)68	全検査 IQ 68	名前を聞かれると自分の名前は自分で言うことができる。会話も4 語文で自分の意志を伝えることができるようになってきている。言葉で の指示より、平仮名の文字を紙に書いた指示の方が分かりやすいよう である。乗り物の絵カードに対する興味・関心が高く、絵カードにある ほとんどの車の名前を言うことができる。						衣服の着脱は自分でできる。排泄は尿は 自立しているが、排便には時間での声かけ が必要である。集団で話を聞いている 時に声をあげる時があるので「話をしない」と 指示すると静かになる。工作等の作業は 苦手である。はさみで紙を切る際も介助が 必要である。			体格は同年齢の幼児と同等の発達である。 走力が弱い。50m走では最後まで走り続ける ことができます。ゴール手前5mからは歩いてし まった。跳躍力も弱く、垂直跳びは10cm程度 しか飛ぶことができない。健康状態は良好で ある。欠席も少ない。				母親は3歳児検診より本人にあった支援を各 関係機関との相談を行いながらきめ細かく本 人の支援にあたってきた。父親理解があり母 親に相談機関等のアドバイスを行ったきた。祖 父母が特別支援に対してやや抵抗感を持って いる。					
	地区別支援学級 在籍(みなみ学級)	6言語障害 ⑦自閉症等 8情緒障害 9その他			(相談したい内容) ・取り出し指導時の物語分の登場人物の気持ちの読み取りの仕 方を指導して欲しい。 ・コミック会話など自分の気持ちを表現できる力を伸ばす支援の 在り方を教示していただきたい。						(巡回相談で相談したい内容を記載す る。)			(巡回相談で相談したい内容を記載する。)				(巡回相談で相談したい内容を記載する。)					
平成〇年〇月〇日生 男																							
郵便番号・住所	〒319-1101 茨城県那珂郡東海村〇〇〇町〇〇〇	保護者名	〇〇 〇〇						家族構成(人数)		父	母	兄()	姉()	弟()	妹()	祖父	祖母					
電話	029-282-〇〇〇〇	勤務先(連絡先)	〇〇〇-〇〇〇-〇〇〇〇						(年齢)		■才	■才	■才	■才	■才	■才	■才	■才					
(生育歴)	胎児期の異常 (特に無し) 出産時の異常 (特に無し)		早産・熟産		〈 11ヶ月〉		出産時の体重(2245 g)		乳児の発育(やや不全)		つかまり立ち(1年 3ヶ月)				歩き始め(2年 8ヶ月)				始語(3ヶ月)				

※ 上記の内容は小学校へ入学時に作成し直す。

各期の支援の目標(幼稚園からの記録にリンク)

医療	福祉(就労)		各期の目標	保護者の願い	教育	保健
県立医療福祉センター (担当医 〇〇 〇〇)	東海村障害者支援センター (指導員 〇〇〇〇)		←(主な支援機関)→		発達支援センター (指導員 〇〇 〇〇)	東海村保健センター(保健師 〇〇〇〇)
・特別支援学級での支援プログラムにより、気持ちが安定してきたので投薬をやめる。(相談は継続していく。)なお、中学校卒業後の診療については、継続する予定である。	・障害者支援センターのレスパイト事業で集団指導を受ける。	中 学 校	4・中学校の特別支援学級で、基本的な生活習慣を身につけ、社会性を伸ばす。	○卒業後の進路について3年間で見極めたいと思っている。多くの施設を見学して本人の力がのびせる学校(高等養護学校か特別支援学校の高等部への就学を考えている。	・特別支援学級で個別の指導計画に基づく指導を進める。(参照 個別の支援計画) ・茨城県研修センター特別支援教育課の相談(言語指導)を毎月4回ずつ行い、日常的会話ができるように支援する。	(特記事項なし)
・高等学校1年時で、〇〇病院の診療内科〇〇先生に紹介状を書き、紹介される。	・本人、保護者、特別支援学校高等部と連絡を取り合い、村内や近隣の市町村での雇用先を探す。	高 等 学 校	5・特別支援学校高等部か高等特別支援学校で就労へ向けて自分の長所を生かした技能や知識を見につけることができる。	○就労へ向けて本人の好きな機械関係の職業について就労の可能性について知りたいと願っている。	・特別支援学校で個別の指導計画に基づく指導を進める。(参照 個別の支援計画)	(特記事項なし)
(特記事項なし)	・事業所と連絡を取り合い、本人の状態を把握しながら必要に応じてカウンセリング等を実施する。	成 人	6・国の名前などの記憶やパズルの並び替えが得意なので、きまった規則によって振り分ける仕事(車の部品の仕分けや宅配便の仕分け(小さなものい)などの作業を必要とする事業所)で、自分の長所を生かし働くことができる。	○就労施設まで自力で通い、職場の仲間と仲良く仕事ができることを願っている。	(特記事項なし)	(特記事項なし)